

京都・丹後半島

会員 福富 廉

以前から一度体験したかった京都の丹後半島にある伊根の舟屋への宿泊を中心に丹後半島をぐるっと一巡りしてきたので、その周辺の船その他についてレポートしたい。

この付近は、“海の京都”と題して、京都府が観光促進に力を入れている地域だ。

1. 天橋立

日本 3 景の 1 つ、天橋立。“股のぞき”で有名な向かいの傘松公園へ行く手段として、また、砂洲の景色を横から眺める手段として、丹後海陸交通（丹後鉄道を別として、この地域の高速バス、路線バス、観光船、ケーブルカー等の公共交通をその名の通り一手に担っている）の観光船が頻繁に運航されている。このうちの 1 日 2 便だけが宮津港まで延長運航されており、京都からの高速バスが着く時間にピッタリだったので、ここから傘松公園近くの一の宮棧橋まで乗船することにした。これに乗れば、途中の天橋立棧橋手前の細長い水路を通過できるのも良かったのだ。

宮津港自体は近くの舞鶴港に比べるとそんなに大きくはない港で、小型の貨物船が 1 隻沖がかりしているだけだったが、懐の深い宮津港に面して海上保安署もあった。

この日、宮津港からの乗客は我々だけだったが、前述の水路を通過して天橋立棧橋に寄港して何人かの乗客を乗せて一の宮棧橋まで乗船した。ここで、一つ興味深かったのは天橋立棧橋の近くにある廻旋橋。船が来る度に電動で橋げたを回転して船を通すのだが、“通常は“宮津まで行かない観光船は橋の北側にある第二棧橋から発着するため、廻旋橋は通らない。しかし、昨年末から今年 9 月末までは改修工事のため、橋の南側の第一棧橋を発着するため煩雑に橋が回転する。つまり、“通常は“宮津港からの便か宮津湾巡りの観光船が通る場合位しか回転しないということだ。

いずれにせよ、天橋立観光する場合は、片道は徒歩かレンタサイクルで砂洲を渡り、もう片道は観光船に乗るのが一般的なお勧めとされている（大回りする路線バスもあるが）。



宮津棧橋



宮津棧橋に入港する「かもめ 11 号」



天橋立棧橋方向への水路を進む



天橋立棧橋停泊中に回転中の廻旋橋を見る



天橋立観光船「かもめ1号」(天橋立第二棧橋)



天橋立観光船「かもめ3号」(一の宮棧橋)



廻旋橋を通過する天橋立観光船「かもめ7号」





廻旋橋を通過する天橋立観光船「かもめ 11 号」



天橋立観光船「かもめ 12 号」(一の宮棧橋)

2. 伊根

一階部分が海（舟置き場）、二階部分が住居スペースになっている独特な建造物で有名な伊根の舟屋、伊根湾／伊根港に面した海沿い5kmにわたって約230軒が軒を連ねる風景はとても有名で、特に最近インバウンドで賑わう観光地ようだ。案の定、伊根行きの路線バスは平日の日中にもかかわらず中華系の団体が乗り込んで、ほとんど立ったまま現地に到着した。

確かに、軒を連ねて海辺にギッシリ並んだ家々の風景は他では見られない圧巻だった（小型船の置き場に屋根をかけただけのものなら隠岐 [学会ニュース 2022-084 (0822) 【隠岐のレポート】の中の、屋那の舟小屋群] にもあるし、バンクーバーやアラスカ付近、スイスの湖等でもあったけれど）。ただ、他でもそうなのだが、使われなくなったり、船が大型化して納まりきれずに外に係留しているケースも少なからず見られる。

先にも述べたように観光地として賑わっていて、丹後海陸交通の遊覧船2隻が30分毎に出港して、しかも毎回多数の乗客を見ることができたし、その他に海上タクシーにもなる地元の小型遊覧船が頻繁に運航されていた。ちなみに、丹後海陸交通の遊覧船はメインの伊根湾の隣の入り江から出入港するのに対し、地元の小型船は街の中心部の岸壁から出入りしていた。

変わったところでは、伊根町消防団と表示のある小型の消防船に係留されていた。家々が細長い道路沿いに密集した陸からの消火活動より海からの方が効果的、と言うことらしかった。

あと、以前は宮津／天橋立から伊根までの船便があったが、コロナ禍を経たせいか、今は運航されていない。しかし、旅行中に、オーバーツーリズム対策でこの6月から、この航路が再開されるという報道があった。今後、このようなケースが増えると我々もうれしい。



伊根の舟屋前を巡る観光船「かもめ6号」



伊根湾巡りの観光船「かもめ5号」



伊根湾巡りの観光船「かもめ6号」



丹後海陸交通の伊根湾巡りの遊覧船乗り場



伊根湾巡りの小型遊覧船「AQUA」海上タクシーにも



伊根の舟屋群



伊根町消防団の消防艇「あおしま」

3. 経ヶ岬灯台

船が好きな私にとって灯台巡りも欠かせない。「新・喜びも悲しみも幾年月」という映画をご存知だろうか。戦前生まれの人たちにとって最初のオリジナル版がそうであるように、今では私たちにとっても古典となって、ファンだった大原麗子や加藤剛、植木等と言った有名俳優たちは既に鬼籍となっている。その映画の冒頭がこの経ヶ岬灯台のシーンから始まる訳で、これもいつかは行こうと思っていた場所である。もちろん、今は無人なのだが、映画で見たつづら折りの道を登って行った場所は、予想通り素晴らしい場所で、ただ、“経ヶ岬の経”は“この地に住みついた悪竜退治のために文殊菩薩が唱えたお経の経”だそうなので、もちろん目の前は海の難所、今では重要性は減ったかもしれないが海の安全に寄与してくれることは頼もしい。かつては、舞鶴に帰って来た復員船の人達が帰国を感じた場所だそうだし、国防上も重要な場所なのだろうが、近くには米軍や自衛隊の基地もあった。



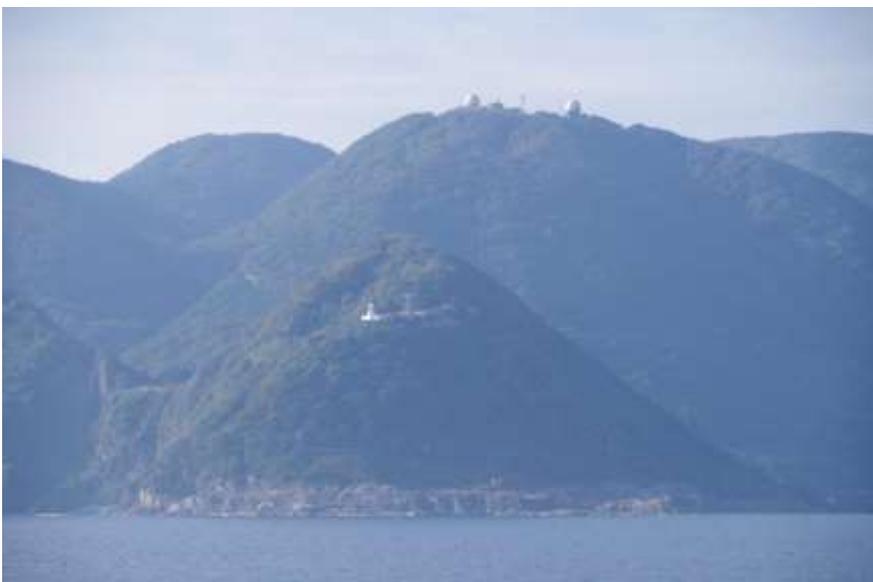
経ヶ岬灯台



灯台はこの山の向こう側



灯台の駐車場（左の写真の右端奥）側の入口



真ん中の白い点のようなのが
経ヶ岬灯台

2019年9月の
学会乗船イベント
「セレブリティ・ミレニアム」
の舞鶴入港前の船上から